

銚回し見んと人垣十重二十重  
雅とも雄々しとも銚回しけり  
銚車心ひとつにして回す  
男衆心一つに銚回す

本橋康子  
藪本文子  
木下洋子  
中西幸雄

どよめきや御池通りへ銚廻る  
太き綱体に巻いて銚廻す  
洛中をとよもし銚を廻しけり  
銚廻すお囃子方も身をよぢり

伊藤昭子  
小川もも子  
山根雪

ふんだんに水打ち据えて銚回す  
かたくなに廻らぬ銚を廻しけり  
ますらをに生れて銚を回さんと  
加勢して五百羅漢や銚廻す

井上次雄  
長谷川權  
同

【辻廻し】  
二ゆらぎ三ゆらぎ銚の辻廻し  
銚の月大きく揺れて銚廻し  
銚先の大きく揺れて辻廻し  
屋根方のふんばりどころ辻廻し

佐々木まき  
本橋康子  
太田芳男  
木下洋子

水撒けよもつと囃せよ辻廻し  
【銚の辻】  
浴びせ打つ手桶の水や銚の辻

坂元初男  
角野京子

銚の辻一筋避けてかき氷  
【銚進む】

佐々木まき

鉦房の揺れの揃ひて銚すすむ  
よういやさ扇返せば銚すすむ  
雷鳴のとどろく中を銚進む  
銚進む都大路に塩打ちて

本橋康子  
小川もも子  
清田喜代子  
中村汀

朝の日や木の音たてて銚進む  
音頭取返す扇に銚進む  
見送りは富士や孔雀や銚すすむ  
須佐之男の力を借りて銚進む  
神となり仏となりて銚すすむ  
黄金の国の都を銚すすむ  
大水も地震もものは銚すすむ  
三日月を花とかかげて銚すすむ

井上次雄  
安藤久美  
大谷弘至  
同  
長谷川權

【銚巡行】

鎌倉英二

銚巡行までは静かな京の朝

同

【銚曳く】  
寿 銚ひく人も見る人も  
箱舟のごとくに銚の曳かれゆく  
炎天の辻より銚を曳き出す

植田房子  
中村汀  
同

塗笠のみなきらきらと銚を曳く  
炎天を揺らしては銚曳き廻す  
銚を曳く笠の下なる玉の汗  
銚曳くや在所は瓜の花ざかり

大谷弘至

もの狂ふごとくに銚は曳かれゆく  
天竺の鬼も来たりて銚を曳く  
生れきて銚曳く玉の命かな  
笠一つかぶりて銚を引く人よ

同  
同  
同  
同

【銚通る】

萬燈ゆき

大丸の孔雀のまへを銚とほる  
開け放つ二階の前を銚とほる  
銚の後しづかに山の通りけり

同  
同  
山田寿美子

【銚動く】

斎藤真知子

銚動く大き車を軋ませて  
昨日まで立ちゐし銚のみな動く  
氷水あちこちに銚動くかな

田宮尚樹  
長谷川權

【銚来る】

大谷弘至

天に熱地に熱いよよ銚来たる  
颯爽と銚来て止る団扇かな  
銚めぐりくるに間のある麦茶かな

上田忠雄  
植田房子

【銚とぎる】

橋詰育子

巡行の銚のとぎるる暑さかな  
次々と銚とどこほる暑さかな

同  
横山幸子

【銚の列】

上松美智子

八坂まで一目千両銚の列  
炎帝の力のかぎり銚の列

同

【銚の道】

清田喜代子

辻といふ難所ありけり銚の道  
注連縄を切つて銚道開きけり  
肅々と八坂へつづく銚の道  
雲の峰はるかに銚の道はあり  
銚の道ちよつとはづれて末富に

同  
同  
趙栄順  
長谷川權  
同

【銚を待つ】

大谷弘至

大辻はいよよざざ降り銚を待つ

同

【銚の奴】銚の衆  
我もまた銚の奴といふべしや  
ここに又銚の奴や松選び

唐振昌  
中村汀

銚陰にひと休みして銚の衆

山田寿美子

【銚団扇】

本橋康子

銚車大きく描かれたる団扇